

雑 録

花 部 形 態 學 異 説

小 泉 源 一

1790年 GOETHE が雄蕊及雌蕊は modified leaves なりといひし以來 HOFMEISTER 亦羊齒の Sporophyll と homolog なりと云へり。それ以來は誰も異説を唱ふる者もなかりしが、Psilophytales の發見以來、最下等なる羊齒門植物は根もなく葉もなく唯 Shoot axis のみありて、Sporangia は其の branchlet の先端部が變成してなりしもので明に葉の生ぜざりし以前よりありしものである。而最下等の羊齒門植物は根を生じて葉を有するものなく、葉は繁密分枝群に扁平なる附屬物を生ずるに到り、漸く此繁密分枝群が葉となれり、それで此分枝の先端にありし Sporangia は今は恰も葉の縁邊に生ぜしかの如く見ゆるに到れり、之即ち Sporophyll なる形態學語を見るに到りしものである、羊齒狀種子植物では如此 Sporophyll なるものを有するものと、然らずして最初の原的性質なる分枝群の branchlet の末端に雄蕊、胚珠を有し此分枝群は花序を成すものとある。

他方又 Shoot 表面の Emergenz が發達して葉となりし或 Psilophytales, Articulatae, Lepidophyta, Palaeophyllales の葉は全く別である。

Sporophyll なるものが一定の形態をなすに到りし後に此 Sporophyll が雄蕊、雌蕊の形態をとるに到りしものは別として、羊齒狀種子植物より降下せし裸子植物や被子植物の最初のもの、内には胚珠が枝の先端に形成せられし原性を維持するものなきや必なしと云ふ事は非る可し。

それで子房なるもの、心皮 (Carpel) は、たとへ葉より變成せしとも、胚珠は其心皮に附着せるものでなくて、Axis の先端に生じたるのが心皮により被包せらるゝやも計り難し。而此の胚珠の珠皮は Axis より出でし Cupula に非らずと云ふ事もなかるべく、或は又 HAGERUP 氏の唱ふる如く是亦葉なるやも計り難し。

或は又 H. THOMAS 氏の云ふ如く子房なるものは Axis より出し Cupula で、或植物の雌蕊や果實に見る如何にも心皮と稱する如く葉狀物に見ゆるもの、如きも數多 Cupulae の愈合せしものなりと云ふが要するに分枝より變成せし点に於ては同一である。

それで顯花植物の花の系統には 元來の原的分枝の先端に生ぜし胚珠と、葉と云ふ後成的の形態單元ができて Sporophyll なるものが成立して以來之に由來せし心皮と

ありて二系統を成すやも計り難し。Potentilleae の如きは或は者前中のものならんか。

莎草植物雜記 5

大井次三郎

17) **タカネヒメスゲ**——今夏北海道の夕張岳に行つたときその頂上に近い鞍部の高原にタカネシバスゲ、スイラスゲ等に混じて小さな變つたスゲが生育してゐるのを見付けたので少し澤山採集して教室に歸つた。その後丁度此れを調べて居る時であつた。樺太豊原の菅原繁藏氏から本年採集された禾本莎草の面白いものを送つて貰つたのであつたがその中にも此れと全く同じ種類があつたのでびつくりした。よく調べた所が此のものは以前シベリヤ北部で記載された *Carex melanocarpa* CHAM. である事が確かに成つたので此所に報告する。歐洲に廣く分布する *Carex ericetorum* POLL. に似たものでその亞種にする人もあるが、小穂及び果囊が可なり小形なものと果囊の毛茸が少ない點で私はやはり別種と考へる。本邦のヒメスゲ、スイラスゲに一寸似て莖が低くて硬く直立し葉も硬く、小穂は小形であるので一見區別が出来る。新和名をタカネヒメスゲと云ふ。その Synonymy は次の通りである。

Carex melanocarpa CHAM. ex TRAUTV. Fl. Taimyr. Phaen. (1847) 21, t. 4; TREVIR. in LEDEB. Fl. ROSS. 4 (1853) 302; F. KURTZ in ENGL. Bot. Jahrb. 19 (1894) 479; MEINSH. in Act. Hort. Petrop 18 (1901) 400; OSTENF. Fl. Arct. I (1902) 84, f. 62; KÜKENTH. Caric. Cajander. (1903) 9. — *Carex brachyphylla* TURCZ. in Bull. Soc. Nat. Mosc. (1838) 104 nom. et Fl. Baic.-Dahur. 2 : I (1855) 281. — *Carex ericetorum* POLL. subsp. *melanocarpa* KÜKENTH. Cyper. Caric. in Engl. Pflanzenr. Heft. 38 (1909) 440. — Hab. *Yezo* : m. Yubari (J. OHWI n. 5071, 5121); *Saghalien* : m. Horoto (S. SUGAWARA n. 23, 26). — Haec species ad Floram Japonicam nova est !

18) **ムセンスゲ**——故工藤博士が記載されたムセンスゲが *Carex livida* WAHLENB. である事はまづ疑ひのない事實である。一寸チシマスゲに似たもので内地産のもの、内ではヤチスゲの小穂を直立させて巾を狭くした様なものである。南北千島を通じて水苔濕原に分布して居るが朝鮮にも産する。朝鮮では咸鏡南道の中央部、平安道との境界から程遠からぬ東白山の二千米附近の所にある。附近は針葉樹林であつてその中の平らな所が所々樹木がなくて水苔濕原となつて居り、小さな池等が數個ある場所があるが、その池の周圍に少々ある。本州、北海道及び樺太では未発見であるが本州では尾瀬沼等に期待の出来る種類と思はれる。